

台風被害報告 9月1日

日本共産党 笠岡市議 ひのつ倫子

朝から数人で出かけた金浦地区。今日は2学期の始業式。子供たちはそれが終わってくるはず。

「手伝って」の私たちの呼びかけに快く応えて頂いた、友人の奥さんが朝から参加して下さり、水浸しになった商店の中を片づけてくれる。

段取りよく仕事をしなければと、私は地域をまわった。特に1人暮らしの高齢者のご家庭が、親戚の方も来られていた

が、女性であったり、お年寄りであったりする。地域の世話人酒井さんが、放送で、「人手の入り用の方は竜宮荘までお申し出ください。もうすぐボランティアの生徒が来てくれます。」とみんなに知らせてくれる。「重い冷蔵庫を運んで」「畳を上げて薬をまきたい」「家の周りに石灰を巻いてほしい。」「家具を動かさない。孫たちまだ帰られない。」こうした声や実態がわかる。狭い道に、うずたかく積み上げられたごみの山。通るのがやっと。



やがて子供たちが着てくれた。事前に頼まれていたので、Kさん宅に三人の子供を向かわせる。新川のSさん宅は、車も人手もなく、ごみを運べないと言うので、軽四トラックを借りて、夫と子供たちが向かう。50人の子供たちや先生方がパンとジュースのお昼とおやつで、夕方まで動き回る。3箇所に積み上げられたうず高いごみの山も、畳など大きなごみは軽トラで何度も往復して訓練所跡に、燃えるごみはパッカー車に来てもらって積み込んだ。これで人も車も通れるようになる。ごみ置き場も整備された。鉄道の北・南、たいそう服を着た子供たちが元気な掛け声と共に動き回る。女の子も男の子も、大人たちも

汗と埃で、美しく汚れている。どこで聞いたのか新聞記者の方が来られた。本意ではなかったが、子供たちの善意が評価されてうれしかった。疲れたで



しょう。みんなありがとう。ご苦労様でした。私はこの日、解散の時に初めてカメラを手にしました。